



地域・駅・新幹線ニュースター

はっしん！新青森

青森県立青森西高等学校

Aomori Prefectural Aomori Nishi Senior High School

×

青森大学

青森大学・青森西高等学校
高大連携事業
協力：JF 東日本新青森駅
（青森学術文化振興財団助成事業）

2021年8月10日(火)
第25号 (FREE)

世界遺産に登録

北海道・北東北の縄文遺跡群

2021年7月27日、国連教育科学文化機関（ユネスコ）の世界遺産委員会がオンラインで行った審議で、特別史跡三内丸山遺跡をはじめとする「北海道・北東北の縄文遺跡群」の世界遺産登録を決議しました。

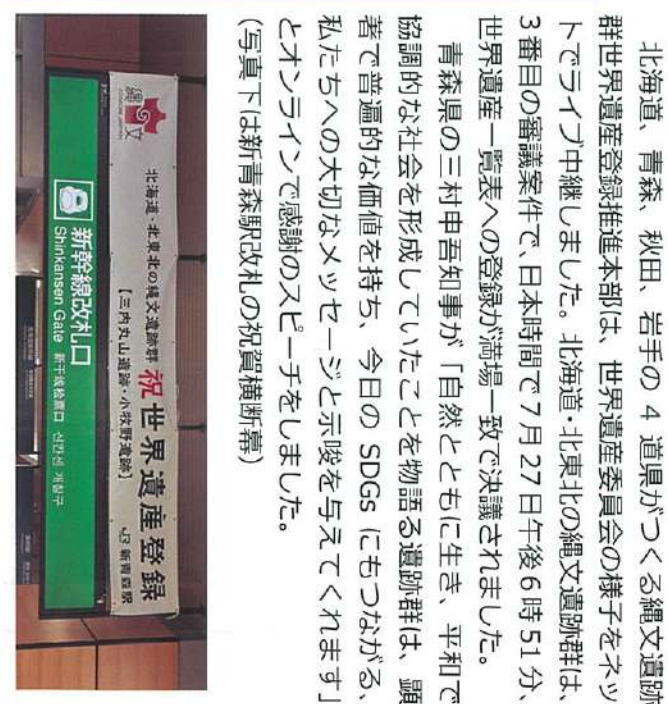


青森西高校「青西おもてなし隊」がゆく②⑤

青森県立青森西高校の「青西おもてなし隊」は三内丸山遺跡にとって貴重な応援団です。遺跡で春夏秋冬に開かれる「縄文祭り」の運営をサポート役として支え、観覧者を笑顔でもてなすとともに、縄文文化の魅力のアピールしてきました。

「北海道・北東北の縄文遺跡群」が世界遺産に登録された翌日の7月28日、三内丸山遺跡で開かれた世界文化遺産登録記念式典にも、イベント補助の依頼を受けて17人が出向きました。

式典参加者への資料配布や誘導、会場での運営補助、一般来館者への記念グッズの配布に携わった生徒たちは、先輩たちの時代からつながりを深めてきた遺跡の新たな一歩に、感慨深げに笑顔を浮かべていました。



北海道、青森、秋田、岩手の4道県がつくる縄文遺跡群世界遺産登録推進本部は、世界遺産委員会の様子をネットでもライブ中継しました。北海道・北東北の縄文遺跡群は、3番目の審議案件で、日本時間で7月27日午後6時51分、世界遺産一覧表への登録が満場一致で決議されました。

青森県の三村申吾知事が「自然とともに生き、平和で協力的な社会を形成していたことを物語る遺跡群は、顕著で普遍的な価値を持ち、今日のSDGsにもつながる、私たちへの大切なメッセージと示唆を与えてくれます」とオンラインで感謝のスピーチをしました。

（写真下は新青森駅改札の祝賀横断幕）



世界遺産登録の式典サポート 駅視察の長万部高校生と交流

青森西高校「青西おもてなし隊」の生徒たちが7月19日、北海道・長万部町から新青森駅を視察した長万部高校の生徒7人と交流を深めました。

一行は、2031年春に開業する北海道新幹線・長万部駅のデザインコンセプトを年内にまとめる「新幹線デザイン検討委員会」のメンバーです。新青森駅と同じく、同駅が在来線と新幹線の乗換駅になること、青森大学の榎引素夫教授が、北海道新幹線調査を通じて同町とつながりがあったことから、青森市を訪れました。

高校生たちは新幹線ホームを端から端まで歩いたり、ホームから陸奥湾や八甲田連峰を見渡したりして、駅の構造と役割、バリアフリー車両の場所などを確かめ

ました。また、コンコースに降りて、土産物店やコンビニの配置と商品、内装の様子を確認しました。続いて、3月にオープンしたばかりの青森駅と自由通路、駅前の景観を調べ、さらに三内丸山遺跡ヘルートパス「ねぶたん号」で移動して、縄文文化に理解を深めました。

最後に再び新青森駅を見学して帰路に就く長万部高校生たちを、青西おもてなし隊の生徒20人余りが見送り、笑顔で手を振り合って再会を約束していました。

このほか、おもてなし隊員たちは東北デスティネーションキャンペーンに合わせ、駅東口の掲示板上、駅利用者がメッセージを貼り付けられるよう、浴衣姿などの切り絵をあしらったボードを飾り付けました。



青森西高校 清野教諭解説

青森県の歴史に詳しい、青森県立青森西高等学校「青西おもてなし隊」顧問の清野耕司教諭に、「ねぶた」の由来を解説していただきました。

青西おもてなし隊は、ねぶたの季節になると花笠・浴衣に身を包み、新青森駅で「いつでも青森プロジェクト」のおかえり だいたいまプロジェクト」と称して、観光客や帰省客のお出迎え・お見送りをさせていただいておりました（写真は2020年の様子）。今年は2年連続で祭りが中止となる中、少しでも青森のねぶたを感じていただこうという企画を計画中です。

さて、今回はねぶたの由来にまつわる話です。青森県のねぶた行事は、民俗学的には「眠り流し」行事の

「ねぶたで災厄、病を払い流す」

一つと考えられます。眠り流しとは害悪としての睡魔を払うもので、七夕にその睡魔をもちらす御霊を送る（川や海へ流す）儀礼とされています。この農村の年中

行事が、町場の山車祭りと結びついたものが、青森ねぶた祭をはじめとする青森県のねぶた行事と考えられます。つまり、災厄を払い流すという意味がねぶたの根底にはあるようです。

昭和の中頃までは、「ねぶた流れる、まめの葉とつばれ」などの近世からの囃し言葉を残していた集落もありました。「災い（病）は流れてしまえ」というような意味合いでしょうか。

九州地方の妖怪「アマビエ」には、我がおもてなし隊も大変お世話になりましたが、コロナ禍という災いを流してくれる強力な存在が青森にもあったことをお伝えします。ただし、このねぶた祭の所作が「密」の温床とは何とも皮肉なことです。



大・タイガー立石展 大胆、カラフルに時代を描く

青森県立美術館

青森県立美術館で9月5日（日）まで「大・タイガー立石展 トラツク、トラベル、トラツプ、トランス」が開かれています。絵画、漫画、絵本、陶彫など200点を超す作品・資料を通じて、タイガー立石の「足跡」（トラツク）を、「観光」（トラベル）、「仕掛け」（トラツプ）、「変容」（トランス）といったキーワードから紹介します。（QRコードが公式Webページにリンクします）。



作品群は、大胆でカラフル、そして多くの人物や出来事を織り込んだ構図が印象的です。「漫画も美術と同じ価値がある、ということ」を伝えてくれます。彼が発案した『コラ割り絵画』に見られるように、1枚の絵

の中に『動き』と『変化、変容』を織り込んでいる点が特徴です」と、担当した工藤健志学芸員は語ります。産地として栄えた出身地の福岡県田川市の思い出や印象をまとめた《香春岳VSサント・ピクトワール山》（写真）は先端の文化や娯楽、全国から集まった人々が醸し出す特異な多様性とバイタリテイを伝えてきます。

7月23日には、青森明の星高校の美術部員が、工藤さんの案内で同展を鑑賞しました。2年の高谷美音さんは「自分では思いつかない、多様な表現に圧倒されました」と感想を話していました。

観覧料は一般1,500円（Webチケット1,300円）、高大生1,000円（同800円）、小中学生は無料です。「コ



三内丸山遺跡 注目「あおもりの縄文世界」展

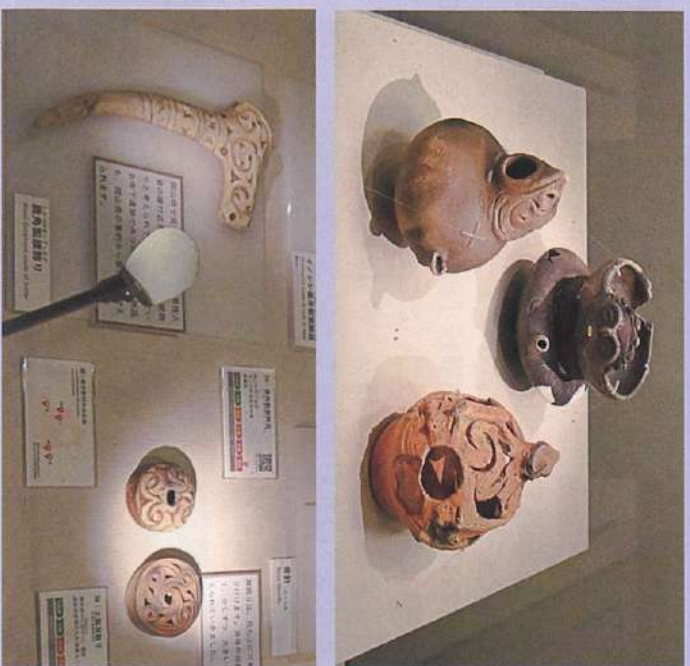
三内丸山遺跡で7月17日、特別展「あおもりの縄文世界」が始まりました。「ムラの変遷」「資源の利用」「交易」「精神世界」の4つの視点から、1万年以上にわたる縄文文化の全容を、青森県内の遺跡から出土した代表的な土器や石器、木製品などを通じて紹介します。世界遺産登録された「北海道・北東北の縄文遺跡群」の世界観を知るには格好の展示内容です。

展示品は重要文化財18点、県重宝36点を含む274点にのぼり、11月28日までの会期中、展示替えを行う予定です。書籍や図録でおなじみの出土品が並ぶ一方、ほとんど展示される機会がなかった出土品もあり、青森県の縄文文化の多様性にあらためて驚かされます。

例えば、西目屋村の川原平（1）遺跡で出土した縄文晩期の人面付き注口土器（写真上・左）は、道化師のような顔が2つ、頂部の穴の左右に付いていて、現代の抽象的な陶芸作品にも見えます。また、階上町・寺下遺跡の晩期の鹿角製腰飾り（写真下・左）は、意匠の緻密さと美しさが強く印象に残ります。

特別展を担当した高橋哲・文化財保護主査は「1万年以上続いた縄文時代は一律だった訳ではなく、時代によってさまざまな特徴を持っています。その移り変わりを楽しんでいただければ」と話しています。

特別展観覧料は一般800円、高校生・大学生は400円、中学生以下は無料です（遺跡を含む常設展も観覧可）。



「弘前オンデマンド交通」いかが？

9月まで東北6県で展開されている観光キャンペーン・東北デスティネーションキャンペーンに合わせ、JR東日本は地元との交通機関などと協力して、スマートフォンで「便利で快適な旅」を支援するサービス「TOHOKU Maas」（トウホク・マース）を提供しています。青森・弘前エリアでは「青森・弘前フリーパス」、弘前オンデマンド交通」などを実施中です＝二次元コード参照。

Maasは、「Mobility as a Service」の略で、さまざまな技術や情報を組み合わせて、交通機関をスムーズに乗

り継いで利用できるサービスなどを指します。

青森・弘前フリーパスは2種類あり、ページックはJR奥羽線の青森～弘前駅区間の普通列車（快速を含む）、弘南バスの市内100円循環バス区間が2日間乗り放題の電子チケットです。セミワイドは同じく青森～大鰐温泉駅区間の普通列車（快速を含む）、弘南バスの100円循環バス区間に加え、弘前～岳温泉前と弘前～西目屋村役場前、青森観光バスのねぶたん号が2日間乗り放題です。

「弘前オンデマンド交通」は、スマートフォンで車両



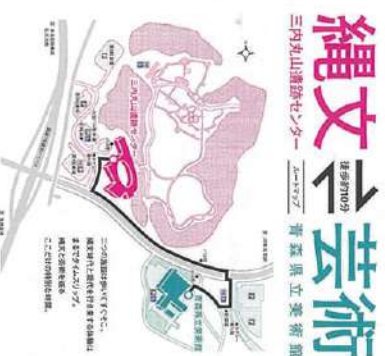
を予約し、市内47カ所に設置された「乗降ポイント」の間を移動できる仕組みです＝写真。特に、バス路線がなく、タクシーでは高額な区間、駐車場がなくレンタカーを使いつらい観光スポットなどを回る時には非常に便利です。



見学時間 9:00～18:00（入場は開館の30分前まで）
休館日 毎月第4月曜日（祝日の場合は翌日）、12月30日～1月1日
観覧料 一般410円（330円）／高校・大学生等200円（160円）／中学生以下無料
※（ ）内は20名以上の団体料金
※特別展は別料金、展示内容により変更する場合があります。
※個人観覧者は、青森県立美術館のチケット呈示で割引特典あり。（詳しくは各施設のチケットカウンターまでお問合せください。）
〒038-0031 青森市三内丸山305
TEL.017-766-8282 / FAX.017-766-2365
URL <https://sannaimariyama.pref.aomori.jp>



三内丸山遺跡センター



青森県立美術館

開館時間 9:30～17:00（入場は16:30まで）
休館日 毎月第2、第4月曜日（祝日の場合は翌日）
※企画展開催時、展示替え等により変更する場合があります。
観覧料 一般510円（410円）／高校・大学生300円（240円）／小学生・中学生100円（60円）
※（ ）内は20名以上の団体料金
※企画展は別料金、展示内容により変更する場合があります。
※個人観覧者は、三内丸山遺跡センターのチケット呈示で割引特典あり。（詳しくは各施設のチケットカウンターまでお問合せください。）
〒038-0021 青森市安田字近野185
TEL.017-783-3000 / FAX.017-783-5244
URL <http://www.aomori-museum.jp>



新青森駅 ⇒ 三内丸山遺跡センター：循環バス「ねぶたん号」（東口）約20分・300円、タクシー（南口）約10分・1,000円前後、徒歩約30分
⇒ 青森県立美術館：「ねぶたん号」（東口）約10分・300円、タクシー（南口）約12分・1,200円前後、徒歩約40分

Facebook ページ Instagram アカウソク



＜ネット情報＞

Facebook ページとInstagram アカウソクを開設し、独自の記事・情報を掲載しています。ご意見をお寄せ

下さい。また、PDF版を青森西高校ホームページ（<http://www.aomorinishi-hasunet.jp/>）に掲載しています。いずれも、右側にのQRコードからご覧いただけます。

☆このニュースレターは、青森大学社会学部・楡引研究室が企画・制作し、文責を負っています。お問い合わせ

縄文と芸術 FB ページ Instagram

